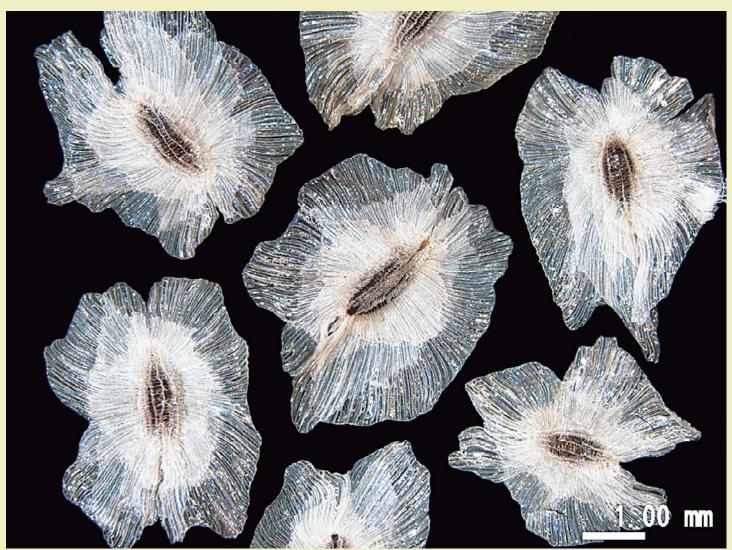


福井市自然史博物館

博物館だより

FUKUI CITY MUSEUM OF NATURAL HISTORY NEWSLETTER



キリのタネ(撮影 吉澤康暢)

キリのタネ

キリは高さ10mほどになるゴマノハグサ科の落葉の高木で、山野に生育する ほか庭木としても植えられています。そのタネは3mm程でとても小さく、顕微鏡で 見るとレースのフリルのような薄い膜状の翼がついていることが分かります。 こんな小さなタネにも、風で遠くに飛ばされるための工夫が込められているのです。



中面に関連記事があります。

福井市自然史博物館 第82回特別展

~生命のタイムカプセルケ

開催期間/平成28年7月16日(土)~9月19日(月·祝)



タネのひよっな探ってより5!

地面に根を張りその場から動けない植物が、唯一動き回ることができるのは タネの時期です。遺伝情報と芽が育つための栄養をたずさえて旅立つタネは、 子孫を残すために空間と時間を旅する「生命のタイムカプセル」といえます。

世界最大のタネ「フタゴヤシ」やグライダーのモデルになった「アルソミトラ」 など世界の驚きのタネをはじめ、身近な「まつぼっくり」や「ドングリ」など 多様なタネを展示し、その中に秘められた子孫を残すための巧みな仕掛けを、 図解や絵解きを交えて分かりやすく紹介します。















フタゴヤシ

世界一大きなタネ



インド洋のセーシェル諸島だけに生育 するヤシ科の植物で、タネは長さ30cm 以上、重さ10kg以上にもなります。

アルソミトラ

グライダーのモデルに なったタネ

東南アジアの熱帯 雨林に生育する ウリ科のつる植物 で、高さ20m以上 の樹上から、薄く て大きな翼をもった タネがゆっくりと 滑空します。



パンクシア

山火事を待つ 不気味なタネ

オーストラリアの乾燥 地帯に生育するヤマ モガシ科の植物で、 自然発火による火事 が起こると、強烈な 熱を受けた果実が 口を開き、中からタネ が飛び出します。

















かくれひっつきむし

長谷川 匡弘

(大阪市立自然史博物館 学芸員)

「ひっつきむし」というとみなさんはどんなものを 思い浮かべますか?地域によっても変わってくる のかもしれませんが、ヌスビトハギやオオオナモミ の果実(図1)を思い浮かべる方は多いのではない でしょうか。ひっつきむしは動物にひっついて移動 (付着散布) をする植物の散布体 (中に種子を含ん だ果実やその付属物を含めた部分)の一般的な呼び 名です。ひっつきむしが載っている図鑑はよいもの が何冊も出ていますので、メジャーなひっつきむ しの詳細はそちらに譲るとして、ここでは一見ひっ つきむしには見えないけれど、実はひっつきむしで

はないかと考えられるもの「かくれひっつきむし」について紹 介したいと思います。

オオオナモミ(図1)の果実は大きく、全体に固いフック 状のトゲが密生しています。元々は外来種ですが、現在では 空き地、河川敷など身近な場所に広く分布しており、ひっ つきむしの代表格といってよいでしょう。このように トゲ、毛、粘液など、パッと見てひっつきそうな部分がある ものは、ひっつきむしと認識されているものが多いです。一 方、小さすぎて目立たないもの、一見ひっつくところがなさ そうなもの、人の衣服にはひっつきにくいが、動物の体毛 にはよくひっつくものなどは、付着散布をしていると考え られるものでも、ひっつきむしとしては認識されていない ことが多いです。例えば、イネ科のオオスズメノカタビラ。 これをひっつきむしという人は今まで聞いたことがありま せん。でも実際、衣服や動物の毛皮に果実(正確には顥



図1 オオオナモミの果実。表面のフック状の刺で動物の体毛や人の 衣服につく。

に包まれた果実)がよくひっつくのです。オオスズメノカタビラ の属するイチゴツナギ属には、護頴の基部に縮れた綿毛を持つ という特徴があるのですが、成熟すると果実がその綿毛にぶら 下がってつくようになります(図2)。このような状態の穂に 触れると、縮れた綿毛の部分が毛や衣服の繊維に絡まってひっ ついてきます。がっちりつくわけではないので、手で払うとす ぐに落ちてしまうのですが、ある程度の距離を移動するのであ れば十分でしょう。今後、オオスズメノカタビラについてはも う少し詳しく調査してみようと考えています。

同じくイネ科のアオカモジグサも、ひっつきむしという イメージはありません。アオカモジグサは成熟し、乾燥した 状態ではのぎが外側に向くようになります(図3)。この状態 のときに人が通ってもあまり衣服につかず、パラパラと果実が 落ちるだけですが、シカの毛皮をもって通り過ぎてみると、お 腹の柔らかい毛にノギが絡まり、意外とよくひっついてきます。 この種も付着散布をしているのではないでしょうか。

このように身近な植物にも「かくれひっつきむし」が結構潜 んでいるのではないかと思っています。みなさんもぜひ探して みてください。もし発見しましたらぜひ私までこっそりと教え てください…。



図2 オオスズメノカタビラ。成熟すると頴に包まれた果実が基部の綿毛 についたままぶら下がる。これで動物が通り過ぎるのを待つのか…?



図3 アオカモジグサ。果実が成熟し、乾燥した状態になるとのぎが外側 を向くことで、動物の体毛に引っかかりやすくなる…?







ビーチ (浜辺) をコーミングする (くしですく ように丁寧に観察する)というところからきてい ます。そしてビーチコーミングを愛好する人たち を、ビーチコーマーと呼んでいます。

浜辺に流れ着く漂着物には様々な物があります が、ビーチコーマーにとって見つけるととても嬉 しい物の一つに、南方から流れ着く種子や豆など があります。

これらの種子や豆には、水に浮いたり、海水が 染み込みにくい仕組みが備わっていて、長期間の 漂流にも耐え、黒潮や対馬海流によって運ばれて

きて打ち上げられます。代表的な物は、ココヤシ、 ゴバンノアシ、モダマ、モモタマナ、シナアブラ ギリ、ハマナタマメなどです。

海岸には、南方からの種子や豆だけでなく、身 近な野山で実った後に落下して河川に流れ込み、 川を下り海まで流されてから浜辺に打ち上げられ るものもあります。その代表的な物は、クルミ、 ドングリ、フジ、アブラギリ、ハス、ヒシなどです。

(博物館友の会 会員/小寺仁美)

新任職員の 紹介



非常勤職員 (動物担当)

晴彦 金剛 Kongou Haruhiko

4月20日から職員として、自然史博物館にきました。 動物担当として骨部(博物館ボランティア)の活動、 自然史講座などで皆様と自然を調べ、学んでいきたい と考えています。

市民のみなさんに愛される福井市自然史博物館を 目指したいと思います。よろしくお願いします。

《あとがき》-

7月16日から、第82回特別展「旅をするタネ」 が開催されます。今号では、特別展のテーマ である植物のタネについて取り上げました。 ドングリやまつぼっくりから、野菜や果物の タネまで、私たちは日常の様々な場面で多種 多様なタネを目にしています。しかし、それら を一まとめに「タネ」として見る機会はなかな かありません。草花とは少し違ったタネという 視点で植物を見ることで、新しい発見をして 頂ければと思います。

(有馬)

《交诵案内》 【電 車】

■福井鉄道福武線 足羽山公園口駅·商工会議所前駅 各徒歩20分 【バス】

- -■ 京福バス: 清水グリーンライン (74系統) 足羽山公園下バス停 (あじさいの道登る)、不動山口バス停(藤島神社登る) 各徒歩10分
- ■コミュニティバスすまいる:西ルート(足羽·照手方面) 愛宕坂バス停 徒歩 10分
- ●まちなか観光周遊バス:足羽山バス停 徒歩3分 ※平成29年3月26日(日)までの土日祝日(12月~2月運休)

【徒 歩】JR 福井駅から徒歩30分

《ご利用案内》

開館時間●午前9時~午後5時15分(入館は午後4時45分まで) 休館 日 月曜日(祝日は開館)、祝日の翌日、

年末年始

入館料 高校生以上100円(20名以上の団体は半額)

中学生以下、70歳以上、 障害者および付添の方は無料



